

Glocal Tenri



5

月刊 **グローバル天理** Monthly Bulletin Vol.15 No.5 May 2014

天理大学 おやさと研究所 Oyasato Institute for the Study of Religion, Tenri University

CONTENTS

- ・ 巻頭言
学ばない大学生
／深谷忠一 1
- ・ 天理教教理史断章 (80)
近愛文書①
／安井幹夫 2
- ・ 天理教伝道史の諸相 (29)
韓国、台湾への道
／早田一郎 3
- ・ 「おふでさき」天理言語教学試論～「こと」的世界観への未来像～ (1)
まえがきにかえて～鑄型と雛型・天理砂岩と御座所
／井上昭夫 4
- ・ 「おふでさき」の有機展開 (25)
第四号：第一首～第二十九首
／深谷耕治 6
- ・ 新宗教のブラジル伝道 (13)
キリスト教の変容⑩
／山田政信 7
- ・ 「いのち」をつなぐ一生死の現象 (29)
授かる「いのち」④
／堀内みどり 8
- ・ ノーマライゼーションへの道程 (27)
福祉のまちづくり⑭
／八木三郎 9
- ・ 天理参考館所蔵の漢族資料 (9)
民間版画①
／中尾徳仁 10
- ・ 図書紹介 (81)
『日本人の一生 通過儀礼の民俗学』
／堀内みどり 11
- ・ English Summary 12
- ・ おやさと研究所ニュース 13

新連載執筆のねらい／第22回宗教研究会
開催(カール・ベッカー)／第2回「教学
と現代10」(ヨーロッパの宗教事情と天理
教の伝道)報告:永尾教昭／第269回研究
報告会「International Conference Bounds
of Ethics in a Globalized World」に参加し
て(堀内みどり)／新宗連シンポジウムで
深谷所長が発題／第8回「宗教と環境」研
究会を開催(佐藤孝則)／新刊案内/おや
さと研究所「開講20周年記念・公開教学
講座」のお知らせ

巻頭言

学ばない大学生

おやさと研究所長 深谷忠一 Chuichi Fukaya

文科省の「学校基本調査」によると、2013年の高校卒業生の56.4%の61万4千人余りが大学に進学しています(専修学校入学を含めると、日本の若者の高等教育機関への進学率は77.9%)。その大学新入生の保護者を対象に、全国大学生協同組合連合会が昨年4～5月に行った調査(回収数23,510、回収率31.9%)によると、受験・入学時に必要な費用の平均は、自宅通学の国・公立大新入生で111万円、私大新入生で138万円、下宿をする国・公立大新入生で180万円、私大新入生で211万円となっています(最高は下宿・私立・医歯薬系の326万円)。

そして、入学後。同生協の昨年10～11月の調査(30大学生協:8,930名の平均値)では、1カ月の生活費が自宅生で5万9千円、下宿生で11万8千円。つまり、4年間で、自宅生で283万円、下宿生で566万円の生活費が必要だと報告されています。

さらに加えて、2年次から残り3年間の大学納付金として、国立大で162万円、私大文系で276万円、私大理系で390万円を納めなければなりません(納付授業料から大学の授業1コマあたりの値段を計算すると、国立で2,300円、私大文系で3,800円、私大理系で5,300円)。

さて、日本の大学は単位制を採用しており、4年間で卒業するためには、春・秋の8学期で120単位、1学期平均では15単位を取得する必要があります。そして、この単位は、各クラスでの1時間の授業と、教室外での予習・復習を各1時間、合計3時間の勉強を条件に1単位を与えることになっています。

つまり、1週間に授業15時間とその予習・復習の30時間、合計で45時間の勉強をする。それを15週間続けて1学期分の単位が取得できる。その15単位を8学期分積み重ねて卒業するのが建前なのです。簡単にいえば、(週に5日間勉強するとして)毎日3時間の授業を受け、その予習・復習を6時間するのが、大学生の本来あるべき姿なのです。

しかるに、授業時間に関していえば、日本のほとんどの大学では、1単位60分ではなく、45分(1限90分授業で2単位)で

授業が行われています。1日平均3単位として、15分×3=45分が最初から短縮されているのです(加えて、欠講、欠席、遅刻、早退がある)。

そして、前述の大学生協連合会の調査報告では、日本の大学生が、授業時間以外に予習・復習・論文などで1日に使う時間は平均50.2分(文系:34.1分、理系:60.1分、医歯薬系:73.1分)という結果が示されています。大学の勉強以外の“就職その他の関心事の勉強時間”の1日23.4分(文系29.4分、理系:18.0分、医歯薬系19.8分)を加えても、日本の大学生が教室外で勉強しているのは1日に平均1時間13分ほどで、本来求められている時間の6分の1程度なのです。

つまり、本来は授業と予習・復習で1日平均9時間は勉強すべき学生が、実際には、(まじめに授業に出ているとしても)正味3時間半程度(文系は3時間以下)しか勉強していないのです。

そして、さらには、大学生の1日の読書時間は、平均で26.9分。(文系で32.0分、理系で24.2分、医歯薬は18.7分)全く本を読まない学生が、平均40.5%(文系で34%、理系で44%)もいるというデータも出されています。単位取得に関係のない課外の学習もほとんどされていないのが現状なのです。

大学で学べることは、知識の修得以外に種々とあり、単純な費用対効果の話だけが全てではない。それは事実だとしても、今の日本の大学・大学生の現状、建前と本音の乖離は深刻です。“全入時代の昨今の大学は昔の高校レベル”などの言い訳のもとに、ろくに勉強をしていない学生、本を1冊も読んだことのない学生を、大学卒だと勘違いさせて社会に送り出すのは、本人や周りの人たちのためにもなりません。

大学が、学問・教養とは無縁の単なるモラトリアムの場合、大人の保育園にならないように、今こそ、大学人・保護者・学生各々が襟を正すべきでしょう。さもなければ、やがて大方の大学がその存在意義を失うばかりでなく、日本の国自体が、人材の枯渇で衰退してしまうだろうと憂慮する次第です。